

協働提案事業の評価について

NPO等活動推進協議会の評価結果は下記のとおりです。

杉並おやこじてんしゃプロジェクト

実施主体	【提案団体】株式会社パワーウーマンプラス 【区】交通対策課
事業内容	大人の自転車運転のマナーの悪さから、子どもを巻き添えにする親子自転車事故が増加している。普段、子育てに追われ、自転車講習等への参加が困難な保護者を対象として、交通安全ルールを学ぶ機会を提供することで、親子自転車事故を防止する。また、親が子供に安全運転の見本を示すことで、子どもの交通事故をなくすことも目的とする。
総合評価	「C+」
【付帯意見】	<p>本提案は、杉並区がこれまで行ってきた自転車の交通安全教室に加えて、親子を対象とした交通安全教育の企画、運営を行うところに特徴があります。これまで、杉並区は、子どもを対象とした自転車の交通安全教室だけではなく、大人向けの自転車安全教室も開催してきたわけですが、大人の自転車交通マナーの悪さが子ども対象の自転車交通安全教育の効果を削いだことが問題とされてきました。昨年、本提案が協働事業として採用されたのは、子育て世代の親と子どもの両者を対象として自転車の交通安全教室を開催することによって、このギャップを埋めていくことができるという解決策が提案に盛り込まれていたからです。</p> <p>その一方で、(1) 杉並区内の自転車関連事故を詳細に分析したうえで、親子自転車の交通安全教育の効果を測る目標値を設定した方がよい、(2) 親子自転車の交通安全教室に関わる人員の体制については、将来の事業展開を視野に入れる必要があること、(3) 事業主体の側の負担能力に不安があるといった懸念が、昨年度の委員から提起されていました。</p> <p>今年度も、協働事業主体である杉並区交通対策係と株式会社「パワーウーマンプラス」の事業報告プレゼンを踏まえて、委員からさまざまな意見が提出されています。肯定的なものとしては、(1) 10万人のママ・ネットワークを通じて親子自転車の安全な乗り方を周知させていくことは有意義である、(2) 親子自転車の交通安全教育をロコミだけではなく、新たにウェブを活用する志向性を示している、(3) 親子自転車に限定した安全啓発であるため、参加者の満足度は高いと思われるので、さらに杉並区との協働によって世代を超えた安全啓発の提案を期待したい、(4) 各種のメディアに杉並区の親子自転車の交通安全教室が取り上げられたことは評価できるので、次年度以降も積極的な広報活動を行ってほしい、このような意見が出されています。それに対して、疑問点としては、(1) 本提案のターゲットを「親子自転車を利用している人」に限定していることで、参加者の満足度は充足されていると言えるが、区民全体の交通事故防止につながっているかは疑問である、(2) 親子自転車の交通安全教育を促進していくサポーターを育てていくという着眼点はよいが、参加人数は多くはなく、集客の努力や工夫が足りないのではないかと、(3) 親子自転車の交通安全教室への参加者はある程度意識の高い人たちであると思われるが、交通安全や安全運転について意識の低い層に呼びかけていく方策が考えられていないのではないかと、(4) 保育所や幼稚園の保護者説明会のカリキュラムの一つに親子自転車の交通安全教育を加える必要があるのではないかと、(5) 「ヒヤリ・ハット」の事例収集を積極的に行い、メーカーや消費者センターとの連携を視野に入れるべきではないかと、(6) 小冊子を3万部作成し、配布したわけだが、次年度も3万部作成するとされており、その配布先、配布後のフォローアップが的確か、アンケート調査の内容、調査結果の生かし方が的確かは疑問である、このような意見が出されています。</p> <p>本事業を継続するに際しては、上記疑問点を克服すべく取り組み、提案については、前年度よりもさらに呼びかけ対象を広げることで、交通安全教育の実績を積み上げていく可能性が増していくことができるでしょう。</p>

【参考】評価項目及び総合評価基準は「協働提案評価集計表」のとおり

協働提案評価集計表

事業名	杉並おやこじてんしゃプロジェクト
-----	------------------

担当課	都市整備部交通対策課交通対策係
-----	-----------------

提案団体名	株式会社パワーウーマンプラス
-------	----------------

No.	評価項目	評価のポイント	評価 (評価員平均)
1	課題・ニーズ把握	今年度の事業実施を踏まえ、あらためて地域のニーズや課題を把握し、次年度の事業を計画しているか。	B-
2	目標設定	今年度の事業実施を踏まえ、具体的な目標を設定しているか。	B-
3	協働の効果	協働で事業等を実施したことで事業成果が得られ、次年度も協働で事業を継続することで、より高い効果が得られるか。	B-
4	地域資源の活用	地域資源(自然環境、産物、施設、文化、歴史等)や地域人材を有効に活用した事業を実施し、次年度もさらなる活用を図っているか。	C
5	区民満足度	事業の実施により区民の満足度が向上し、次年度も満足度を高める事業内容になっているか。	C+
6	団体の事業実現力	提案団体は、必要な知識・経験・実績・特性(強み)を生かしながら事業を実施し、次年度の事業にも活用しているか。	B-
7	団体の事業組織力	提案団体は、的確な実施体制(人員配置、財務状況、他団体との協力ネットワーク等)により今年度事業を実施し、次年度も必要な実施体制を有しているか。	C
8	計画性	今年度の事業が、事業計画等に沿って的確に行われ、次年度の事業計画等も実行可能なものとなっているか。	B-
9	経済性	次年度の事業経費の規模、資金計画、経費分担、経費内訳、算出根拠等が明確かつ適切か。	C
10	創造性・新規性	今年度の事業実施を踏まえ、さらなる発想、アイデアを有し、課題解決に向け積極的な事業内容となっているか。	C
11	継続性・波及性	次年度以降も発展・継続する可能性があり、地域へのさらなる波及効果が期待できるか。	B-
総合評価 (評価員7名の平均)			C+

※委員評価点

A…特に期待できる(5点) B…期待できる(4点) C…標準的である(3点)

D…あまり期待できない(2点) E…期待できない(1点)

※総合評価基準

	A	B+	B	B-	C+	C	C-	D+	D	D-	E
特に期待できる		←期待できる			←標準的である			←あまり期待できない			期待できない
5~	4.44	4.14	3.74	3.44	3.14	2.74	2.44	2.14	1.74	1.44	
4.45	~4.15	~3.75	~3.45	~3.15	~2.75	~2.45	~2.15	~1.75	~1.45	~1	